

進学編

進路実現に向けて大切なこと

- 1 早く目標を決め、やるべきことを確実にやる→意外と短い卒業までの時間
- 2 遅刻、欠席を無くす →すれば増えるだけ、減らすことはできません
- 3 1年生から成績を上げておく →後から成績は直せない
- 4 いろいろな経験をして、自分のこと、将来のことを語れるようになろう
(部活動、生徒会活動、ボランティア活動、インターンシップ等)

毎日の努力は必ず自分の力になって戻ってきます→コツコツが結局は近道

I 学校の種類

1 大学・短期大学

- (1) 四年制大学…① 国立大学 ② 公立大学 ③ 私立大学
(2) 短期大学……① 国立短期大学 ② 公立短期大学 ③ 私立短期大学

2 専門学校

3 大学校・短期大学校

進路を決定するに当たって

- 1 偏差値だけでなく、何を学ぶかを決める
- 2 大学を出てどうするか、そのために何を学ぶのか
- 3 大学の学科の内容を研究しよう
- 4 学校推薦型選抜では高校生活をどう送ったかがカギ
- 5 総合型選抜では高校でどのような活動に自主的に取り組んできたかがカギ

II 入試について

1 学校推薦型選抜について

- (1) 学校推薦型選抜には大きく分けて3つある。

① 国公立大学の学校推薦

大学入学共通テストを課す・課さない場合の2種類がある

大学からの条件に加えて学校代表としてふさわしいと見なされること

出願までに校内での選考がある

② 私立大学・短期大学・専門学校の指定校推薦

指定された特定の高校からしか応募できない

専願 合格率が高い

大学、短大からの条件に加えて学校代表としてふさわしいと見なされること

出願までに校内での選考がある

次年度以降に続くものなので入学後も頑張れる人

③ 私立大学・短期大学の公募制推薦

一定の基準を満たしていれば誰でも応募できる

例 一般公募制推薦…評定平均値一定以上、欠席△日以下等

- (2) 専願と併願について

推薦には併願可と専願(併願不可)の2種類がある。(学生募集要項でよく確認すること)

- ① 専願 合格したら必ず入学するという約束をした上で受験する。

合格後の辞退はできない。

- ② 併願 別の大学にも合格した場合、入学辞退をすることができる。

2 総合型選抜(AO 選抜を含む)について

- (1) 各大学・短期大学・専門学校は、入学志願者のさまざまな能力や主体性などを把握するため、以下の①～⑤を出願要件(出願の目安)や可否判定に用いており、その旨を募集要項に記載している。
- ① 各大学・短期大学・専門学校が実施する検査(筆記、小論文、実技、面接等)の成績
 - ② 大学入学共通テストの成績(共通テストを課す場合に限る)
 - ③ 資格・検定試験などの成績等
 - ④ 高等学校の教科の評定平均値
 - ⑤ 各大学・短期大学・専門学校が求める学生像(アドミッション・ポリシー)に合った人物
- (2) 各大学・短期大学・専門学校の入学受け入れ方針をよく検討して受験すること。
- (3) 入試の方法が多様化している。進学を希望する各大学・短期大学・専門学校がどのような受験方法を行っているかしっかり把握しておくことが大切。

3 一般選抜について

- (1) 国公立大学 大学入学共通テスト + 二次試験

大学入学共通テスト…全国一斉同一の問題(マーク試験)

大学によって必要な教科、科目が異なる。

テスト後、自己採点の点数によって出願先を決定する。

二次試験……………各大学で実施、前期・後期(大学によって中期)の2回

(同一の大学学部を2回、異なる大学学部でも受験可能)

大学によって受験方法、教科・科目が異なる。同一の大学学部でも前期後期で異なる場合がほとんどである。

出願は前期、後期(中期)同時出願となる。

大学入学共通テストと二次試験の合計によって合否が判定される。

(合計点数などについては各大学によって異なるので確認すること)

- (2) 私立大学 ① 一般選抜(各大学の指定する科目で受験)

- ② 大学入学共通テスト利用

(大学入学共通テストのみ利用 受験に行く必要はなし、受験料も安い)

そのため一般選抜より難化する場合が多いので注意すること

- ③ 大学入学共通テスト + 各大学の試験

・多種多様な受験の方法を取っている。同一大学でも複数の受験方法が当たり前になっている。

- (3) 専門学校 学科試験を課すところが多い。希望者の多い系統(看護医療等)ではほとんどのところが学科試験がある。

Ⅲ 受験の流れ

1 受験から合格まで

(1)志望校の決定	○志望校を担任や保護者と相談しながら決定
(2)学生募集要項の確認	○志望校の学生募集要項を取り寄せるか志望校のホームページから閲覧する。 ※受験の条件や試験内容を確認

(3)推薦入試を希望する場合 ※校内選考が必要な推薦 国公立大学の学校推薦型選抜 国公立大学の総合型選抜 私立大学・短期大学・専門学校の指定校推薦	○担任と保護者と相談して決定していく。 校内選考を要する場合 ・担任との面談で意思の確認、保護者との合意。 ・7月下旬(保護者懇談会終了後)に進路指導部まで調査書作成願を取りに来る。 ・8月上旬に必要な記入事項を書き、作成願を担任へ提出する。 ・8月上旬に校内選考委員会を実施する。 ※選考結果については、担任から各自に連絡する。
(4)推薦書について	○出願に推薦書の提出が必要な場合は担任に連絡する。
(5)推薦入試の出願と受験票について ※すべての推薦者対象	①自分で用意するもの 志望理由書 用紙は志望校指定の用紙へ記入する。 願書・インターネット出願の場合は各自がログインできるように登録する。 ・紙媒体の場合は各自が志望校へ連絡し取り寄せる。 ※指定校推薦の場合は、担任から願書を受け取る。 ※写真は4月に撮影した個人撮影を使う。 ②担任が作成するもの 調査書…関係書類の送付期日に余裕をもって担任に依頼 ※出願日から2週間前までに調査書作成願を進路指導部でもらい、提出する。 ③学校が作成するもの 推薦書…学校を通しての受験の場合は必ず添付する。 ※余裕を持って依頼。調査書作成願が依頼書類を兼ねている
(6)大学入学共通テストの出願	○令和8年度大学入学共通テストに係る大学入学共通テスト以降の出願や登録内容の変更等は、オンラインで行うこととなる。大まかな流れは、次のとおり。 ①受験案内・受験上の配慮案内の公表【6月中旬頃】 ②マイページの作成開始【7月上旬頃】 ③出願・検定料の支払い【9月下旬頃】 ④出願内容の確認・登録内容の変更【10月中旬頃】 ⑤受験票の取得【12月中旬頃】 ⑥成績の閲覧（希望者のみ）【4月上旬頃】
(7)合格発表	○結果について ホームページへ掲載される場合は、各自が確認し担任へ報告する 学校へ結果が来る場合は、担任から連絡する
(8)国公立大学の一般選拔出願 私立大学の一般選拔出願	①自分で用意するもの 願書・インターネット出願の場合は各自がログインできるように登録する。 ・紙媒体の場合は各自が志望校へ連絡し取り寄せる。 ※写真は4月に撮影したものをを使う。インターネット出願の場合は、画像データが必要。 ※国公立大学の前期・後期(中期)出願は同時出願となる。

	②クラス担任が作成するもの 調査書 関係書類の送付期日に余裕をもって担任に依頼 ※出願日から2週間前までに調査書作成願を進路指導部でもらい、提出する。
--	--

IV 注意事項

- (1) 出願の際に必要な書類は、各自で準備する願書や志望理由書などの他に、学校側が準備する調査書や推薦書などがある。
- (2) 調査書や推薦書などは、作成するのに時間がかかるので、「進学用」調査書作成願は余裕を持って提出すること。(出願日の2週間前)

調査書

- ① 高校3年間の学業成績、出欠状況、生徒会活動、部活動、ボランティア活動、各種検定試験等が記録されている
- ② 進学だけでなく、就職する場合にも必要となる
- ③ 学習成績概評と評定平均値

学習成績概評	評定平均値
A	4.3 ～ 5.0
B	3.5 ～ 4.2
C	2.7 ～ 3.4
D	1.9 ～ 2.6
E	1.8 以下

推薦入試で基準として示されている学校もある。

- ④ 調査書に利用される3年次の成績について
 - ・定期試験ごとに行われる成績会議で利用する成績が更新されていく。
 - 1学期期末試験で確定する成績について
 - 1学期～2学期中間試験前に出願する学校が対象
 - 主に国公立大学の学校推薦・私立大学の指定校推薦を決定する校内選考が対象
 - 2学期中間試験で確定する成績について
 - 2学期期末前に出願する学校が対象
 - 主に国公立大学の学校推薦・私立大学の指定校推薦へ出願が対象
 - 2学期期末試験で確定する成績について
 - 2学期期末試験以降に出願する学校が対象
 - 主に1月以降に出願する私立大学一般試験・国公立大学の前中後期の一般試験が対象

V 各書類の手続きについての注意事項

- (1) 志望校の決定
 - ① 自分の適性を考えたうえで各資料を十分検討して決定する。
 - ② 保護者と十分な話し合いをする。
 - ③ 自分がやりたいことを中心に。行けるところという選択ではなく、進学する意味をよく考える。
- (2) 学生募集要項(願書等)について
 - ① 原則として自分で用意する。

紙媒体の場合は、志望校から取り寄せる。

電子媒体の場合は志望校のホームページからダウンロードする。

- ② 学校に送付されてきたもので部数に余裕のあるものは渡せるので相談する。

指定校推薦については、担任から渡してもらう。

(3) 「進学用」調査書作成願の提出

- ① 用紙は進路指導部職員室にある。
② 受験校が決定したら出願に余裕を持ってできるだけ早く提出する。(出願日の2週間前)
③ 保護者印を押し担任に提出し確認してもらう。

(4) 願書の作成、確認

- ① 願書の作成は各自で行う。
用紙での出願の場合は、清書の前に下書きをし、担任または進路部に確認してもらう。
インターネット出願の場合は、各自がログインできるように登録し出願まで行う。
不明な点があれば進路指導部へ相談に来ること。
② 願書提出の少なくとも1週間前には、清書したものを確認してもらう。

(5) 出 願

- ① 自分で作成した願書等と作成を依頼した調査書(推薦書)を添えて郵送または持参する。
② 郵送の場合は学生募集要項に記載された方法で行う。例)「簡易書留」等
送付用の封筒がある場合はそれを利用し、無い場合は指定された封筒を用意する。
郵便受領書を自分で保管しておく。

(6) 忌引願の提出

- ① 忌引願の用紙を教務部でもらう。
② 受験1週間前に忌引願を提出する。
※時間割の変更等で提出が遅れる場合は時間割が決定次第確認し、早急に提出する。
③ 押印の順番は 進路部 ⇒ 担任 ⇒ 教科担当 の順で回り、最後は担任に提出する。

(7) 受験報告書の提出

受験終了後できるだけ早く受験報告書を提出する。用紙は、進路指導部職員室にある。

VI 学校推薦に関する基準

- (1) 必ず保護者の同意を得ていること。
(2) 学校推薦をするのにふさわしい人物であること。
(3) 学業成績不振者、理由のない欠席・遅刻・早退が多い生徒は、推薦できない場合がある。
(4) 指定校推薦、専願推薦の場合は、必ずその学校に進学する生徒に限られる。
(5) 1科目でも欠点を有する生徒は推薦できない。
(6) 進学補習、模擬試験や資格試験、部活動やボランティア活動をはじめとする課外活動等への積極的な取り組みや姿勢、その結果等についても校内選考の選考材料とする。
(7) 国公立大学と、それに準ずる大学等の推薦については、可否に関わらず大学入学共通テストを受験することを条件とする。

※校内選考委員会について

- (1) 学校推薦に関する委員会
(2) 構成員

校長、教頭、進路指導部長、進学担当、就職担当、3年学年主任、3年担任